

# DPC 使用指標における定義

(社) 日本病院会

2011 年 9 月 14 日版

## 各指標の共通事項

### 1) 対象病院

- DPC 対象病院（準備病院も含む）となっている施設を対象とする。

### 2) 調査データ

- 厚労省調査用の「形式チェックプログラム」による点検を行ったのち、暗号化される前のテキストファイルを活用。

調査票	期間
様式 1	平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月退院分
D ファイル、入院 EF ファイル	平成 23 年 1 月～平成 24 年 3 月分

### 3) 分析の対象外とするもの

- 自費、医科保険外の患者
- 入院期間中の EF ファイルがない患者
- 退院日当日に再入院した患者
- 様式 1 の生年月日、入院年月日、退院年月日が誤っている患者
- 様式 1 の医療資源を最も投入した傷病名に DPC が該当しない患者（例：正常分娩 O80\$等）
- 様式 1 の対象となる精神病棟、その他の病棟に転棟した患者

### 4) 手術「有」となる場合の取り扱い

- 様式 1 の手術情報に入力があったものを手術「有」とする。  
ただし、以下のものは入力があっても手術「有」とみなさない。

点数表コード	術名
K907	胎児外回転術
K908	胎児内（双合）回転術
K913\$	新生児仮死蘇生術
K914	脳死臓器提供管理料
K915	生体臓器提供管理料
K920\$	輸血
K920-2\$	輸血管理料

### 5) 入院期間の取り扱い

- 入院期間は、外泊を除いた在院日数とする。

<計算式>

在院日数 = 退院年月日 - 入院年月日 + 1 - 外泊した期間

- 臨床評価指標の算出で用いた入院期間は、患者が DPC 算定病棟に入院している間の在院日数となる。  
このため、DPC 算定病床以外の病床に入院している間の在院日数は含まれない。

## 6. 退院後 6 週間以内の救急医療入院率

対象病院	DPC 対象病院	
計測期間	様式 1	平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月退院分
	DEF ファイル	平成 23 年 1 月～平成 24 年 3 月分
定義	分子	退院後 6 週間以内の救急入院患者数
	分母	退院患者数

### <使用データ>

様式 1	EF ファイル
○	

### <計測フローチャート>

#### 分母の算出方法：

様式 1 の「退院年月日」が調査期間に該当する症例数を算出する。

#### 分子の算出方法：

分母のうち、様式 1 の「予定・救急医療入院区分」が「救急医療入院」に該当し、かつ、入院日の 4 2 日前以降に様式 1 の「前回退院年月日」が該当する症例数を算出する。

## 7. 手術ありの患者の肺血栓塞栓症の発生率（リスクレベルが中リスク以上）

対象病院	DPC 対象病院	
計測期間	様式 1	平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月退院分
	DEF ファイル	平成 23 年 1 月～平成 24 年 3 月分
定義	分子	分母のうち、入院後発症疾患名に「肺塞栓症」が記載されている患者数
	分母	肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数（リスクレベルが「中」以上の手術は『肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）の予防ガイドライン』に準じて抽出）

### <使用データ>

様式 1	EF ファイル
○	○

### <計測フローチャート>

#### 分母の算出方法：

様式 1 に、別表 1 危険因子手術の手術（区分 1 は 15 歳以上の患者、区分 2 については 40 歳以上の患者を対象）がある患者で、かつ EF ファイル上に同じ手術があることが認められた患者を抽出し、その合計患者数を算出する。

#### 分子の算出方法：

分母のうち、様式 1 の入院後発症疾患名に「肺塞栓症（I26）」があった患者を抽出し、その合計患者数を算出する。

## 10. 急性心筋梗塞患者に対する退院時アスピリンあるいは硫酸クロピドグレル処方率

対象病院	DPC 対象病院	
計測期間	様式 1	平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月退院分
	DEF ファイル	平成 23 年 1 月～平成 24 年 3 月分
定義	分子	分母のうち、退院時処方アスピリンあるいは硫酸クロピドグレルが処方された患者数
	分母	「急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞（DPC コード：050030）」の退院患者数。 ただし、以下の場合を除外する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退院時転帰が死亡であった患者</li> <li>・ 退院先が「他院へ転院（入院）した場合」あるいは「その他(介護老人保健施設、介護老人福祉施設等への転所)」に該当する患者</li> <li>・ Killip 分類が「Class4」であった患者</li> </ul>

### <使用データ>

様式 1	EF ファイル
○	○

### <計測フローチャート>

#### 分母の算出方法：

様式 1 が以下の条件を全て満たす患者を抽出し、その合計患者数を算出する。

- ・ 医療資源を最も投入した傷病名が以下のもの  
『DPC コード：050030 急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞』

ICD10	疾患名
I21\$	急性心筋梗塞
I22\$	再発性心筋梗塞
I24\$	その他の急性虚血性心疾患

ただし、様式 1 に以下のいずれかあるいは二つ以上該当するものは除外する。

- ・ 退院時転帰が以下のいずれか
  - 6：最も医療資源を投入した傷病による死亡
  - 7：最も医療資源を投入した傷病以外による死亡
- ・ 退院先が以下のいずれか
  - 4：転院
  - 7：介護施設等
- ・ Killip 分類入院時における重症度が以下
  - 4：Class 4 心原性ショック（収縮期血圧＜90mmHg，末梢循環不全（乏尿，チアノーゼ，発汗））

#### 分子の算出方法：

分母のうち、退院日から遡って 3 日以内に別表 3 アスピリン、硫酸クロピドグレルに該当する薬剤が処方されている患者（E5、F5 データ区分が 20 番台（投薬の部））を抽出し、その合計患者数を算出する。

# 11. 手術ありの患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率（リスクレベルが中リスク以上）

対象病院	DPC 対象病院	
計測期間	様式 1	平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月退院分
	DEF ファイル	平成 23 年 1 月～平成 24 年 3 月分
定義	分子	分母のうち、「肺血栓塞栓症予防管理料（弾性ストッキングまたは間歇的空気圧迫装置を用いた計画的な医学管理）」が算定されている、あるいは抗凝固薬が処方された患者数
	分母	肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数（リスクレベルが「中」以上の手術は『肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）の予防ガイドライン』に準じて抽出）

## <使用データ>

様式 1	EF ファイル
○	○

## <計測フローチャート>

### 分母の算出方法：

様式 1 に、別表 1 危険因子手術の手術（区分 1 は 15 歳以上の患者、区分 2 については 40 歳以上の患者を対象）がある患者で、かつ EF ファイル上に同じ手術があることが認められた患者を抽出し、その合計患者数を算出する。

### 分子の算出方法：

分母のうち、入院期間の EF ファイルのレセプト電算処理システム用コードに「B001-6 肺血栓塞栓症予防管理料」の算定があったもの、または、「別表 2 抗凝固療法薬」が処方されていた患者を抽出し、その合計患者数を算出する。

レセプト電算処理システム用コード	診療行為名称
113006910	肺血栓塞栓症予防管理料